

アオジの潜む、成りは小さいが大きな谷津田

稲富 直彦(千葉市緑区在住)

私が家族とともにこの活動に関わるようになったのは、昨年の初夏。当初はお手伝い要員ということで、体験学習の一環で谷津田にて農作業とフィールド観察を体験する小学生たちの観察案内役をいただきました。普段は海を中心とした環境問題を生業としておりますが、比べて「谷津田」のスケールはずいぶん小さく箱庭的にみえたものでした。何れ自然な流れで農作業のお手伝いを志願して、田植え、草刈り、実り、収穫、年明けにもちをつき皆で食べ、喜びを分かち合い。。。振り返れば、数年分の人生に匹敵する体験を得たようにすら感じます。語れば紙面はいくらあっても足りない程ですが、私が長年フィールドとしている海と、この谷津田の冒険をつなぐエピソードを一つお話ししたいと思います。

もう16年も前の事です。5月13日未明、下北半島沖65kmの海上を漂泊中の調査船(400tクラス)のラボにこもって海水の分析を行っておりました。漂泊とは、船を洋上に流し翌朝からの仕事に備えている体勢の事で、航行上の安全のため、デッキに明かりが灯され、もちろんエンジンを止めることは無いので、太いサイクル音は絶え間なく船内に響き渡っております。その夜の海況は穏やかで、船は時を刻む振り子の様に、のたりのたりと揺れておりました。ラボはデッキと通じていて、新鮮な夜風を通すため、出入り口を解放しておりました。デッキに人の気配は無く、私一人、マイペースでノルマをコツコツとこなしているところ、「バタバタ...バタバタ...」と背中に羽音の接近、「チッ...



画像1

チッ...」と機械的とも思える周期的な声の通過。羽音と声は次第にその数を増し、ついにはエンジン音を圧倒するばかりに。。。尋常でない雰囲気の手を止めてデッキに出れば、船上のそこかしこに小鳥が留まり、明かり手前に黒い影が間断無く通過し、声、羽音は漆黒の海上の先へ幾層も取り巻いている様でした。デッキ上の鳥たちは体が膨らみ疲労しきった様子です(画像1:デッキに降り立ち息つくアオジ)。案の定、翌朝のデッキには数十を超える鳥たちの遺骸が残されました。未明の目視と遺骸の観察から、来船した鳥はアオジ、その亜種のシベリアアオジ、クロジの混群であったと推察されました。

時、所変わって、今年1月9日、新年のスタートを切るどんど焼きが開かれていた下大和田にて。私は長玉(超望遠レンズ)担いで、網代師匠と2人会場を離れ、休耕田周囲を散策しておりました。ノスリ、



画像2

マヒワ、カシラダカ、ダイサギ、ツグミ、モズ、などを撮影して回る中、ブッシュ狭間を盛んに飛び交ってはなかなか姿を見せてくれない小鳥が、かなりの数潜んで居る気配でした。ただ、四方から届く地鳴きに忘れもしない!過去、船上でおびたたく耳にしたあの「チッ...」というアオジの声そのものを聞きました。スズメより一回り程大きく、背中は褐色を帯びスズメ風。何より、鮮やかな黄色を帯びたお腹が特徴的で、ややグレーがかった頭に、眉斑、頬線と顎線狭間の黄色も目立ちます(画像2, 3, 4:

下大和田にて根気よく待ち伏せて撮影した一こま)。千葉県下の谷津田では晩秋～初春に観察される様ですが、夏季には北へと渡る様です。船での観察から察するところ、本州から海を越え、北海道以北へダイナミックに移動する群も居ると思われます。

谷津田のアオジは、命を削るような旅途上、船上に飛来した彼らとはずいぶんと違い、精悍な姿で、ブッシュを俊敏に、非常に元気に飛び交い、間違えなく、ここで十分体力を養なっている風でした。

滾々として枯れる事の無い湧水あり、大地の実りあり、谷津田は大きな海と太陽からの恵みの受け皿となつて、沢山の生き物達や植物を育んで、遥々訪れる渡り鳥達を惹きつけるオアシスとなっているのでしよう。

アオジの声に、今年も稲作に係わつて、オアシスを整えておきたいと、決意を新たにしたところでありました。



画像 3



画像 4

谷津田いきもの図鑑 No. 48

ルリビタキ

冬枯れの雑木林にやってくる鮮やかなブルーの鳥がルリビタキです。頭から翼、尾は光沢のあるルリ色で、白いお腹の脇のオレンジ色がアクセントになっていて、何ともおしゃれなデザインの小鳥です。英語の名前は「Red-flanked blue tail (赤い脇腹に青い尾)」で色合いをそのまま表現しています。メスはオスの青い部分がオリーブ色ですが、脇腹のオレンジ色と尾のブルーはオスと同じです。

夏場は高い山の針葉樹の森で暮らして繁殖し、高い木の梢で高らかにさえずります。冬になると人里に降りてきて、下大和田や小山では谷津の斜面林の縁で見かけます。色鮮やかですが、小さな鳥なので目で見てルリビタキに気づくことはまれで、鳴き声で存在を知ることの方が多ようです。ルリビタキは冬場オス、メスそれぞれ単独でなわばりを張って暮らし、自分の縄張りを宣言するために、「ヒッ、ヒッ、ヒッ」としきりに鳴きます。同じ鳥の仲間のジョウビタキもよく似た声で縄張り宣言をするので注意が必要です。よく似た、というよりもほとんど聞き分けるのは難しいかもしれません。ただ、ルリビタキの方は「ギュッ、ギュッ」というちょっと変わった声をよく出すので、この声が出たら確実にルリビタキがいることがわかります。ルリビタキは人をあまり恐れないのでじっとしていると目の前1メートルくらいまで近づいてくることがあります。地面に降りて草の実や落ち葉に隠れた虫を探している様子をよく見かけます。

ジョウビタキもルリビタキも比較的長い尾を小刻みに震わせてヒッ、ヒッと、カッ、カッなど声を出すのが火打ち石で火を起こしているように聞こえることから、「ヒタキ」と呼ばれているそうです。

(高山 邦明)



木の实をくわえたルリビタキのオス(下大和田にて、2009.1/4)



里山たんけんレポート

第132回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い 生きもののつながり 新春の谷津田 一生物の関わり合い

2011年1月9日(日) 晴れ

今日は「観察会」と「どんど焼きと昔遊び」のダブル開催となりました。

まずは観察会から。参加者が多く足ごしらえがない方も多かったので長靴組と長靴を履いていない組と分けてスタート。長靴組は谷津の下流部へ、長靴を履いていない組は上流部の田んぼへ、それぞれ向かいました。冬季はバードウォッチング主体の観察で谷津を一巡、鳥たちとの出会いを楽しみました。

特記はオオタカ、ノスリが出現して歓声をあげました。また、マヒワを比較的近いところで見ました。モズ、ツグミ、アオジ、カシラダカ、など観察会前後も含めて16種が見られました。田んぼでは冬なのにミジンコがいたり生きものがあることに驚きました。広場に戻って、COP10に合わせて実施してきたこの谷津に生息する生物の関わり合いのまとめを行いました。参加者の皆さんにこの谷津で観察した生物を付箋に書いてもらい、どのような環境にいたのかマップに張っていただきました。次いでそれらの生物がどのように関わり合っているのかを食物連鎖のピラミット図に落とししました。今日見たオオタカ、ノスリを頂点に見事なピラミット図ができあがりました。この谷津には食物連鎖の頂点にある生物を支える裾野の豊かな生物相があることがよく理解できました。

(参加者 大人23名、高校生2名、子ども20名； 報告：網代春男)



みんなで作った生きものピラミッド

第117回 下大和田 YPP「どんど焼きと昔あそび」

2011年1月9日(日) 晴れ

恒例の新年どんど焼きは最初に上記観察会にみんなで参加して真冬の谷津でも元気に暮らす生きものを見て歩きました。

観察から戻ってきてまずはいつものように火起こしをしてどんど焼きに火をつけます。例にもれず煙は出てもなかなか炎にならずみんな悪戦苦闘、息が苦しくて頭クラクラ。でも、今年もちゃんと一つのグループが見事に火を起こしてくれて、かかしや竹を組んだ櫓が大きな音を立てて燃え上がりました。高く上る炎を見ると新年の希望が湧いてくる気分です。

火の周りでべいごまやけん玉をしたり、水路でボート競走をしたり、さらにかたる取りなど正月あそびもして、楽しい一年のスタートになりました。

(参加者：大人23名、子ども22名；報告：高山邦明)



最後にみんなで記念撮影(撮影：田中正彦)

第62回 小山町 YPP「おもちつき」

2010年1月29日(土) 晴れ

昨年収穫した緑米を使ってもちつきをしました。1升半ずつ分けてせいろでふかすことおよそ40分。ほかほか蒸けあがったアツアツのご飯を臼に移すと白い湯気がいっぱい。最初に大人が米粒をつぶすようについて、それから子供たちの番です。「ヨイショ～、ヨイショ～」のかけ声に合わせて元気いっぱいつきました。小学生も高学年になると大人用の重い杵を平気で振り上げられます。子供だけでなく、お父さん、お母さんも全員が一回ずつつきました。とても寒い日でしたが、もちつきをすると体がホカホカ。つきあがったおもちはきなこ、あんこ、大根おろしなどなど、いろいろな味で楽しみました。

自分たちで作ったお米のもちを食べて、今年も一年元気に暮らせそうです。

(参加者：大人20名、子ども13名 報告：高山邦明)



小学生も高学年になると大人用の杵を使えます(撮影：榎本一雄)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 1月1日 初日の出が差し込む谷津で2羽のジョウビタキのメスが至近距離で餌を探していた(高山)。
- 1月16日 ジョウビタキが地上でしきりに草の実を食べていた(高山)
- 1月23日 ルリビタキのメスとトラツグミを見かける(高山)

下大和田

- 1月30日 新しいモグラ塚がたくさんある谷津田の上空をノスリが飛翔(高山)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第118回 下大和田 YPP「ニホンアカガエルの産卵調査と田んぼ・林の手入れ」

ニホンアカガエルの産卵状況をみんなで調査します。今年はどうくらい産むのでしょうか?

田んぼや林の手入れ作業も行う予定です。

日時: 2011年2月19日(土) 10:00~14:00 小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第134回 下大和田 3月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルのオタマジャクシが見られる頃です。冬鳥も間もなく繁殖地へ旅立ちます。

早春の谷津を巡ります。

日時: 2011年3月6日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼第63回 小山町 YPP「自然観察と田んぼの手入れ」

真冬の谷津を散策して野鳥などを観察し、また、田んぼの手入れもします。

日時: 2011年2月13日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、もしあれば双眼鏡など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 今年は年明けからずっと冬らしい寒さの毎日が続いています。谷津の南側、丘の日陰になっている場所は日中でも氷が解けることがなく、ずっと冷え冷えとしています。全面結氷している田んぼもあちこちで見られ、厳しい寒さの日々を物語っています。それでも湧水のある田んぼは水温が高く、日中になると泥の中に隠れていたメダカが泳ぐ姿が見られます。そして季節は2月。ようやく気温が上がる日が出てきました。恐らく、この谷津田だよりがみなさんの元に届く頃には、下大和田でニホンアカガエルの産卵がはじまっていることでしょう。今年はどうくらいの卵塊が見られるのか楽しみです。みなさんも近くの谷津田へ出かけて、アカガエルの卵探しをしてみてください。(高山 邦明)